

明治四年辛未十月

萬國新聞

第貳號

東京書林

二書堂合發

48
115
2



18
115
2

萬國新聞第二號

シヤパンヘラルド新聞第二千四百八十七號

明治四年未十月八日刊行

第九月廿七日布^{スウイ}陸國と日本乃條約己と整ひ布陸國旗の爲
よ日本と臺場及び軍艦等よて祝炮ありしに付き布陸の都
府〔ホノルル〕とあは〔ボンキボチル〕と云臺場に日本乃國旗被
上る同しく祝炮あり日没迄炮聲止まらざりしとあは
先達て日本乃船頭三人政府の免許を得て布陸細て〔エ
チイスリチント〕と云蒸氣船に乗組と日本乃港を出帆して



恙なく〔ホノル〕に到着し、然るに布哇乃外務局執政を
日本政府は免状なきを以て〔ユチイスリチ〕ト餘の船將と
命し船將の費用を以て此三人の者を魯西亞に軍艦に乗せ
日本に歸し船賃一人に付五十ドル宛船將に拂はせられた

○
〔ロウシヤル〕と云者先達て横濱にて贗札を製造せしを
合衆國のコンシユル官よて詮議せしむ此者贗札製造せし
る事を云張るり然るに其後上海よて又贗札を製造しあり
しを露顯しあり彼の地にある合衆國の監察エツチダブリ
ウデニツンと云人此者を捕へ吟味せしむ全く贗札製造せ

し事明白なるに付此人の守護よてニウヨルに於て昨日
横濱に到着しあり此者の裁許不日よあはれへきあり

○
ジヤパンヘラルド新聞第二千四百八十八號

明治四年十月九日刊行

先日フリモチス船商社の會議ありしに支那揚子江を開ふ
に支那國內との貿易の都合よらるへしと評議しあり然る
に或る貴人の云しに此場所と英の番兵として砲船一雙
を置るは支那人の亂妨を制する事を得此開港場に
て支那人亂妨せば大に難儀あるを然る英國政府に歎願

天津楊子江に開港場は永久必砲船を置くべき事を欲せ
る

○
シヤパンガゼット新聞第一千八百八十四號

明治四年辛未十月五日刊行

天津洪水の事

天津に洪水漸々ふ引しと雖も未だ八尺たり九尺餘の水な
り他日外國人居留地とて天津市街に南門に至る迄渡船し
て見物せしむ淺き所と雖も猶も六尺之下らば戰死せし者
に高大な流葬地と幾多の石碑ありしは皆水と没して僅に

二碑あは水上に一二寸出たるを見ふは此石碑の上部に飾
りある大概押流流せし又此構へな流煉化石の塀を押し流せし今
も盡く沈没して見へば

○
佛國よは字漏生へ日々償金を運送せしる最初に十五億フ
ランクスの殘金を皆濟はるべき金高を昨日請取をば此金高凡
一億一千三百萬フランク餘なり今迄一日も運送しるは内
の第一に高なり右の内九千八百五十萬を二拾フランクに
金貨なり各二拾萬フランク宛包と別をばは鍊道乃端より
爲替會社迄此金運送は爲伯靈の「ヒツクホルト」得モロ

ウ得及ハシエシツト得コある車二拾四輛被須ヒたり右の外多字國乃楮幣なり此楮幣を佛國北部みて償金被拂ふ爲めに集めし者なり

○

○ ジャパンガゼット新聞第千八百八十八號

○ 明治四年辛未十月十日刊行

英國の女王ハ猶引續て病床に臥せり水曜日ニ至るまゝ醫師バルモラー九畝外出を許されりしとあり

○

○ 昨日英國總兵隊の秋季大調練あり千ヤンブリツギ鈍ギユ

一ク餘外國の見物人を同道して見分せり周圍は高處ハ見物人群集し々雜沓ぞり前面ハ步兵隊二列は横隊被布き騎兵及ハ大砲隊を其後殿ニ備へたり見分終り々直に引揚をし其縱隊の前驅に多騎砲隊を備へ騎兵の「千ウーシエ」ンハシル。テ。マクマホン八之を率ヒ英國は太子之に續き次にブリンスエドワルド護衛隊被引き揚々を是に續きて常備兵民兵及ハ自投兵被引き此諸縱隊は後に小荷駄車を備へたり此退陣の時間幾むと三時に充たり

○

○ ジャパン。ウネキリメー九新聞第四十六號

明治四年辛未十月六日刊行

日本天皇陛下横濱へ幸行ありむとの風聞久しくありしに種々の事件に依て猶豫あり然しふから最早不日にありむ事承知せし陛下横濱に暫時行在して後製鍊所を見分ぞむるを横須賀へ行幸あるべしと云

○
日本政府高官の者數人を使節とし歐羅巴に遣はむ事を欲せし此使節恐らくは岩倉木戸大久保山田及伊藤をもち然しふる未だ確定せし使節の主意深く蓋ひ隠れし雖も日本に於て是等の如く一時も缺く可くは必要用の人

物使節に遣はし其事必し緊要なる事明白なり近頃伊藤を工部大輔の任受たり又此の使節の命を受くるべしと云

○
日本政府へ教官其外課業にて雇はれたる數多の外國人天皇陛下に謁見したり此一周問を謁見したる者多ありしに尙其他の者も亦引續きて謁見ありむと云
日本政府に於て此教官等を取扱ふ模様を見れば天皇陛下思召の程も通し聊御隔意なき御様子も顯しされは各謹て其職務を奉ぞんじを得

○
亞米利加欽差デ。ロング舩恐く第十二月の下旬にハ日本を
出立し亞米利加飛脚船より本國へ歸るをい

○
去る金曜日米國船コロラアド舩及ヒアラソ方舩の士官二
十人欽差デ。ロング人名を附て 天皇陛下に謁見するを
コロラアド舩ハ月曜日ハ横濱に歸れり

○
箱館に於て大火あり城下より市中の戲場に至れり此火災
みて大凡四五百軒被燒き拂ひしと云此損失を算當はる

三十萬兩よる六十萬兩に至るをい

○
ジヤパンガゼット新聞第千百八十五號

明治四年辛未十月六日刊行

○
當週中横濱の英國兵隊屯所の中み尤も大膽なる盜賊あり
此度合衆國より新に海軍病院を取建はる付屯所内にある
士官の家二三軒を他に移しる此内一軒の家を幾と普請
出來せしに付明日引移るべき積りより煖爐を置き附る夜
此締りをして翌朝主人來り戸内を窺はる煖爐を奪はる主
人大に驚き早速此始末を取締兵隊に報告したり取締兵隊

處々探索せしむ屯所の後々の村みてブリツキ店に政府は
印ある精鑄板ありしに付き此主人を捕へ詮議せしに精鑄
板は近所の人より買たりと云へり直之彼の者を召捕り種
々探索せり又ブリツキ店に後々の借家より彼の煖爐あり早
速持主を戻し猶もブリツキ店の主人は吟味受るる此煖爐
も先きの精鑄板を買いし男より買ふりと云へり此盗人並
にブリツキ店の主人も日本に裁判所にて吟味を受ふ也

○

第十月廿一日シンガポチル船と支那の「ホーキン」（譯）船と
と「テウチウ」とは兩黨の争鬪より烈き擾亂を起したる之を

鎮定せむる爲に民兵及び自投の兵を集し最初ハ賊勢盛
よして官兵不足なりしに終に許多の賊徒を捕へたる賊徒
處々を亂妨し店並に土藏を奪ひ大なる棒を以て門戸を打
毀ち家財を擄奪せり此一揆より支那人負傷ハ多く病院に
入せあり但し死者ハ二三人見へたる共其餘ハ皆取片付し
まり土曜日夕「リメルド船名」到着し此船の水夫一組を取締
として上陸せしむる不日之平穩にかゝり

